



明かりがあれば、農村部でも学校に行く機会が増える

40年前の地震の傷跡 今も首都に残る

ニカラグアは1979年から87年まで、10年近くにわたる内戦を経験した。親米のソモサ独裁政権を倒したサンディニスタ革命政権と反革命武装勢力コントラの戦いに、コントラを後押しするアメリカの経済制裁なども加わって、経済は破綻し、国土は荒廃した。85年、首都マナグアに近いコリント港の封鎖で子ども向けの医療品が不足していると聞いた名古屋の大学生有志が支援のために集まったのが「ニカラグアの会」の始まりだ。

当初は医療品の援助や、看護師による現地医療支援などを行っていた会だが、内戦終結後の90年ごろからは奨学金の支給やストリートチルドレン支援など、教育支援の方向に舵を切った。発足時のメンバーが名古屋を離れる一



ソーラーパネルの手作りや設置は、やってみると難しくない

方、新たなメンバーや地元カトリック教会の関係者などが加わり、現在は30代から50代を中心に十人ほどが主軸となって活動している。

ニカラグアの会では一連の活動を通じて30年間、支援を続けてきた。事務局長の伊藤幸慶さんは「72年の大地震で中心街が壊滅的な打撃を受けた首都マナグアは、あれから40年経つのに復興したという印象がありませんが、この数年、やっと新たなショッピングモールやおしゃれな建物などが増えてきたところでは、それくらい、貧しさを実感せずにはられない国です」と打



国際協力の担い手たち

ニカラグアの会

手作りの明かりを学校へ

80年代の内戦で経済も社会も深い傷を負ったニカラグア。復興の道のりは長く、電気のない場所も多い。この国の学校のために、明かりを「手作り」する人たちがいる。



電気を自分たちの手で作ることで、より深く理解できる



ニカラグア
マナグア

ち明ける。

ニカラグアの会では、子どもたちの支援のために現地のNPO「FUNDECII」と協力。年間約30人の子どもの奨学金を支給する一方で、ニカラグアの大衆絵画「素朴画」の展示会やカレンダーの製作・販売、現地のミュージシャンを招いたコンサート開催などを進めてきた。素朴画カレンダーの製作・販売は、現在まで続いている。こうした取り組みの継続と並行して、2007年から取り組んでいるのが、手作りソーラーパネルを使った電化促進事業だ。

名古屋を拠点にNPOの支援や勉強会などを行っている特定非営利活動法人アルシユ（自立を支援する会）が主催した「手作りソーラーパネル製作講習会」にニカラグアの会の運営委員たちが参加。予想以上に簡単だったことから、「これはニカラグアでも活用できるのでは」と考えたのがきっかけだ。

同国は天然資源が少なく、慢性的な電力不足に悩まされている。電化率は11年時点で中米諸国の平均（91%）より低い78%にとどまる。農村部ではわずか30%だ。学校にも家にも電気が届いていないことが、特に農村地域の人々の教育機会を減らしているという。

これまで同会が作成した40ワ



手作りの明かりが、学校を照らす

ットのソーラーパネル15台のうち、一つは葉巻の生産で知られる北東部の都市エステリで「夜間成人女性学校」を開講している学校に贈られ、現地の女性たちの勉強を支えている。

「作りは簡単」 現地の人が教え合う

ソーラーパネルを手作りするのは意外と簡単だ。太陽光を電気に変える「セル」をハンダでつなぎ、最後に水や風から守るためのラミネート加工をすれば完成する。「手作りすることで、自分で電気を作る」という実感と共に、

構造を理解し、環境について考え直す機会になります」と伊藤さんは言う。「ニカラグアでも、自分で作ることで仕組みに興味を持ち、使いたいと思う人が多いようです」。一方で、ソーラーパネルの材料を国内だけではそろえきれないことや、バッテリーなどの電気活用に必要な部品を買いえない貧困世帯も少なくないことが課題だ。

当初は同会の人たちが現地に赴き、ニカラグアの人たちを対象に研修会を開いていたが、現在は「世界のんびり」のためのJICA基金」を活用し、研修を受けた現地の人たちが講師として講習会を開くなど、現地での活動の自律化に取り組んでいる。講習会参加者向けの環境ワークショップや、学校での環境教育の展開なども強化中だ。現地での講習会の主な参加者は20代から40代が中心で、学生や女性の参加も多い。現地で活動する日本の青年海外協力隊員やドイツ人教員などもいる。彼らとともに、地元の力を生かした手作り電力の普及を実現するのが目標だ。

伊藤さんによると、ニカラグアの人々は、ラテンアメリカの中では引つ込み思案だが、お互いにすぐ打ち解けあえるフレンドリーな部分もあるという。「生活は厳しいけれど、おしゃべりや音楽、ダンスなどを通して毎日を楽しんでいることが伝わってきます」。日本ではあまり知られていない国だからこそ、ぜひ、興味を持って、いつかは足を運んでほしいと願っている。



発電用のパネルをハンダで直列につなぐ。ソーラーパネルの仕組みは単純だ